

木知原の今昔!

44号: 24・8・2

江戸時代は遊び心で!!

あの時代劇の頃! 木知原は?



集荷場(昔は屋敷跡)に竹竿で白布を張り、星空の下で「杉作! 日本の夜明けは近いぞ!」の「鞍馬天狗」を観た記憶を昨日の様に思い出せるから不思議である。大娯楽だったんですよ!

今はテレビ時代劇が人気である。ところでそれぞれの時代劇の頃(時代)木知原村はどのような暮らしぶり(世情)であったのでしょうか。遊び心で「江戸時代の」^メとして書き出してみました。

年・頃	時代劇名	木知原の様子
1690	水戸黄門 水戸藩主を30年務めた名君 1690年に隠居し生涯を大日本史編纂に尽力した。(黄門=中納言) ・映画「諸国漫遊」は創作で藩外へ出かけることはなかった。	1635年:大垣戸田藩の直接支配地となってからは、悪代官もおらず戦国乱世後質素ながら落ち着いた暮らしが始まった頃である。集落は上の段(浦山裾にあった)が中心。 ・岩崎門洞両用水完成し新田開発で活気が出てきた ・天和元年(1681)渡船場開業で村が賑やかになる ・元禄2年(1689)田社神社全焼も一年で再建した
1716	暴れん坊将軍 吉宗自身が悪を成敗する時代劇 大岡越前守忠相(南町奉行) 吉宗時代の実在の名奉行	1722年に道標:1745年に地藏尊が祀られるなど暮らしにゆとりが出てきた時代である。 ・巡礼ブームで出店を構える農家が増え様相が一変。 ・新田も大川端や谷川東まで開発され収穫量が増加。 ・1748年6代戸田氏英が大庄屋任命に来村
1717	(事件は創作・参考事例アレンジ)	
1770	必殺仕事人:剣客商売 池上正太郎の時代小説「剣客商売」がドラマ化。(創作劇) ・背景は田沼意次時代	村人は農業書を読み生産性の向上に努め殿様の信頼の厚い村となった。村人の識字率は近郷を抜き出していた。 ・初代氏鉄が教育熱心で精神が代々受け継がれてきた。 ・食糧増産の一方でイノシシ害が急増で廉猪垣初設置
1788	火付け盗賊改方 長谷川平蔵は実在で盗賊改め(凶悪犯取り締まり専門職)の頭を8年間務めた。	1789年8代戸田氏教(うじのり)が大庄屋任命に来村 ・2回もの来村は夢のようで村民総出で黒藤までお迎え。 ・江戸時代で最も勢いを持った頃で居宅も三和土(たたき)にいろり付きの二間という農業家屋の原型が完成。
1840	遠山金四郎(金さん) 南北両奉行を歴任して難事件を解決した実在の名奉行。 ・ドラマ「金さん・江戸を切る」のモデル(入れ墨は諸説あり)	1817年根尾川護岸工事が完成し新田開発が加速した。 ・上の段に集中していた居宅が平地に移り始め村の姿が大きく変わり始めた。(地図参照) ・長瀬村との郷境争論再燃という難題も起きた頃である。 ・争論は1858年代官所の通達後も明治14年まで続く。
1860年代前半	鞍馬天狗 鞍馬山の天狗が幕末の京都で悪を懲らしめる架空ドラマ。 ・義経に武芸伝授との伝説もあり ・新選組との対決が話題の中心	200年以上も平穏な暮らしに浸りきっていたが ・1864年突然の天狗党通過事件で大混乱に陥った ・1868年幕府が滅び明治維新。まさかの出来事! ・11代戸田氏共(うじたか)の殿様が最初の知事に就いた事で村人の不安も多少は和らいだかなと思われる。
	銭形平次 “岡っ引き”八五郎と難事件解決の痛快時代劇	寛永通宝は1636年から昭和28年迄使用できた。 ・ウソの様であるがホト

話題(事件)の背景が江戸時代全般に渡っているのが特徴。

「親分! テーヘンディ 今昔の発行が一週間遅れやしたぜー」
 「はち! 済まなかったなあ あんまり暑いんで ちょっと〇〇てヨ-!!」

「今昔」で紹介した内容を参考に註記。こんなこと考えていたら折角の時代劇も興覚めになるが、江戸は一時期パリをものぐ100万人の町で農村では想像もつかなかった。「江戸と背中が見て死にたい」も「言い得て妙」で不思議な時代(格差社会)でもあった。《次号から明治時代を紹介》